

地域課題の解決へA I 活用

産業振興など 久留米工業大で成果発表



研究の成果を発表する大学生

人工知能（A I）を使って地域課題の解決に取り組むプログラムの成果発表会が10日、久留米市上津町の久留米工業大であった。自治体や企業が現場で直面する課題を提示。学生たちは業務効率化や産業の認知度向上を目指し、A Iを活用した作業自動化システムやメタバース（仮想空間）の実装などを提案した。

同大が2021年度から実施する産学官連携プログラムの一環。約50人の学生

回避するドライバーの知恵や、配送先での滞在時間などを条件に組み込み、トラックの走行条件に適した経路を算出するシステムを構築した。参加者からは「道路の渋滞情報も考慮されるとよい」などの意見が寄せられた。

情報ネットワーク工学科2年の水田葵菜さん（19）たちは、入院患者の残食量を計測し、より適切な栄養介入を支援するシステムを提案した。水田さんは「シス

テムに追加すべき条件を考えるのが難しかった」と振り返った。一緒に研究した管理栄養士の野口聡子さん（59）は「人手が足りない中、摂食量が下がった患者をより早く把握することにつながる」と話した。

（杉野如海）